

# 令和2年度 事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日

特定非営利活動法人サポネットおごおり

## 1. 事業の成果

令和2年度は、例年同様に「相談支援」、「地域活動支援センターI型」（オープンスペース）、「移送サービス」の3部門それぞれに目標と責任分担を明確化して連携しながら活動を行った。

特に本年度は新型コロナウイルスの発生により、度重なる緊急事態宣言が発令され国や県・市からの感染防止対策への協力依頼があり、今までに経験したことがない日常生活を強いられた。定例化していた会議や認定調査、計画相談の訪問（施設・事業所・自宅等）が一時中止となった。オープンスペースでは“あすてらす”館内の毎週水曜日の休館日と合わせ、コロナ感染拡大防止のため日曜日を閉所とした。事務所では、コロナ感染予防対策として来訪時のマスク着用、消毒、検温（記録に残す）を行ない、部屋の換気に努め空気清浄機や飛沫防止のパーテーションを購入して設置した。同時に来訪後の消毒の徹底を行い感染防止に努めた。

各部門の内訳として「相談支援」部門は、例年通り相談支援専門員7名体制にて内1名を一般相談の相談員とした。このメンバーで「生活支援事業」「相談支援」「計画相談」「認定調査」「自立支援協議会事務局」「うつ病家族広場」「グローバルネットワークおごおり」「地域交流活動」「地域支援活動」の9本立ての活動を行った。月2日の閉所日（第2日曜日・第4水曜日）以外は相談支援専門員が常駐することで、基本相談や来所できない人への訪問や同行、会議等をスムーズに行った。特に休日や祭日にあった緊急電話では即時の訪問や来客対応を行なうことができた。

「生活支援事業」では、「本人活動支援事業」として各団体の支援や個人活動支援、「ボランティア活動支援事業」として行事へのボランティア要請を行うと共にボランティアの育成を行っていたが、新型コロナウイルスの影響で中止とした。「福祉機器リサイクル事業」では、広報誌や掲示板を利用して関係機関への周知を行ない、提供8件（電動車いす、歩行器、紙おむつ、スロープ等）（7品目20点）、譲渡11件（7品目20点）のリサイクル斡旋を行った。車いすの貸し出しは徐々に増えて今年度は10件行っている。課題としては、車いすの保管場所やリサイクル機器の常設会場がない為、大型の福祉機器は提供者宅に保管したままで、見本がない状態での斡旋になり譲渡の調整に時間がかかることが多くあった。

「相談支援」については、7名の相談支援専門員で1名を一般相談の相談員、

6名を相談支援専門員（知的・身体・精神）として、8,985件（延べ件数）の相談に対応した。内訳は来所相談（本人・家族）640件、電話相談4,823件、訪問857件、同行329件、支援会議117件、関係機関2,031件、メール188件（全て延べ件数）となっている。新型コロナウイルスの影響で訪問・会議等は一時中止となり減少したが、電話相談が毎月100件以上の増加となっている。同時に一般相談も年毎に増えると同時に包括的な支援会議への参加もあり、一般相談担当職員だけでの対応が難しくなっている。

「計画相談」は6名の相談支援専門員（知的・身体・精神）が専従し、各自で上限件数を決めて対応を行った。年間566件【内訳、新規24件、更新331件、モニタリング211件】を実施した。計画作成に伴う支援会議や自宅訪問、事業者訪問等が新型コロナウイルスの影響で中止となった時は電話でやり取りを行った。サポネットとしての計画相談の受け入れはすでにオーバーしているが、まだ市内の計画相談を行う事業所が少ないため、引き受けざるを得ない件数があり苦慮した。

「認定調査」は、新型コロナウイルス緊急事態宣言の影響で令和2年5月～9月、令和3年1月～2月は中止となった。尚、6名の調査員が障害種別それぞれの専門性を活かして3障害全体で130名の調査を行った。急な調査依頼への対応や調査場所については自宅よりサポネットでの調査が多くなった。今年は1名認定調査員を増員し、何時でも対応できるようにした。

「自立支援協議会事務局」については14年目となり、新型コロナウイルスの影響でハイブリッド会議（オンライン会議や対面会議）を行った。毎月1回の「運営会議」の他、「ネットワーク会議」「各ワーキングチーム」（WT）を実施した。

「学校教育連絡会」は中止とした。障害当事者を含む市内障害者関係機関による「ネットワーク会議」は、年2回開催した。内容として、虐待防止のための研修やコロナ禍における各事業所の状況や対応について情報交換を行った。「就労WT」「児童WT」「相談支援WT」「生活WT」の4つのWTにて、コロナ禍で回数減とはなったが勉強会や情報交換等、独自の活動（年数回）を行った。イオン小郡店での「小郡・まごころマルシェ」は中止となったが、新たにコロナ困窮者生活支援事業を受け各事業所での製品を箱詰し配達した。また、農福連携と打ち出し、大崎ポケットパークの地域生産者販売所宝満の市での「まごころマルシェ」を年末に行った。「全体会」については、2回実施し、第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画を策定した。今年から福岡県相談支援従事者初任者研修受講者への小郡市自立支援協議会の内容紹介を行うようになり、5名の受講者に2日間（2名と3名）に分けて説明を行った。

「学校教育連絡会」については、例年市内保育園・幼稚園、小・中・高校・特別支援学校の先生方や障がい福祉課、子育て支援課、教育委員会の担当者の参加、及び児童WTの担当者が参加し、市内に新設された事業所の紹介や利用方法、学校での気になる子供さんへの対応等の意見交換会を行ってきた。その際、出て

きた困難事例については各機関（子育て支援課、障がい福祉課、教育委員会、サポネットおごおり）等と連携しながら対応している。市の縦型の組織を横に繋げ、地域資源を活用することで、障がい児や家族が案心して生活しやすい地域になるのではと考えていたが、本年度は新型コロナウイルス非常事態宣言にて中止した。

「うつ病家族広場」については、平成22年1月より、毎月1回実施している。スタッフはサポネットから2名、市福祉課から1名。今年は11年目で、コロナウイルスの影響で2回のみ開催となり、延べ15名の家族の参加があった。参加人数の減少もあり、開催の頻度や曜日など今後も要望などを聞きながら形態を考えながら家族のニーズに応じて行きたい。

「グローバルネットワークおごおり」で行う障害児の長期休暇中（春休み・夏休み・冬休み）のデイサービス事業は、毎回利用する保護者へは事前に年間予定表を渡して利用しやすい様になっている。新しい障害児の参加もあったが、本年度は新型コロナウイルスの影響でサマースクールを中止、ウインタースクールを実施する予定で募集まで行ったが緊急事態宣言のため中止した。スプリングスクールについては会場等の確保が難しかったが、こぐま福祉会の尾久保研修所にて1日のみ実施した。以前に比べて参加者の減少が見られる。理由としては、放課後等デイサービス事業所が市内に増えたためと考えられる。反面、ボランティアが1人の障害児に2~3名と手厚い体制で行えるため、利用者や家族からは高齢者や若い生徒や学生さんのボランティアを非常に喜ばれている。この事業にボランティアとして関わった生徒や学生さんが障がい児者施設や事業所へ就職している事は非常に喜ばしい事である。ボランティア育成の目的も達成していると思われる。

「地域交流活動」については、障害児（者）の啓発活動の一環として、市内外からの個人・団体の見学や小・中・高生の実習受け入れや講師派遣を行っていたが新型コロナウイルスの影響で中止となった。特に市内中学校（宝城・大原・三国）が定着してきたと思われる。また三国校区コミニティーセンターでの障がい者福祉の勉強会に講師として伺い、その後の支援へと繋がっている。

「地域支援活動」についても、小郡市内の各障害者団体との自立支援協議会を通じて連携を密に取れるようになり、その団体に応じたいろいろな支援が出来たと思われる。

次に「地域活動支援センターI型」（オープンスペース）では、常時1名以上の職員を配置し、「いつでも行ける場所」「いつでも相談できる場所」として常設してきた。例年、オープンスペース担当は相談支援専門員が兼任し、利用者数が多い時やスタッフ不足の時は有償ボランティアをお願いしていたが、今年度はコロナの影響で有償ボランティアへの依頼は行わなかった。コロナ感染拡大防止のため、利用者が多い日曜日を休館日として10月からは“あすてらす”定期休館日の水曜日と合わせて週2日の休館日となっている。

来訪者数は3,138名（延べ人数）だった。市内に通所事業所が増えてきた為か、

平日の日中は少なく、事業所帰りの夕方の利用が多くなった。土曜日は朝から利用者が非常に多く、終日を通して 20 名以上になることが多い。新型コロナウイルスの影響で、休館日が増えたことや来所を控える方もおられ、昨年度から比較すると 1000 名以上の減少となっている。開所にあたってのコロナ感染予防対策として来訪時のマスク着用、消毒、検温（記録に残す）を行なった。部屋の換気に努め、空気清浄機やパーテーションを設置し、3密にならないように間隔をあけて席を設ける等の感染防止に努め、利用者の要望を取り入れながらもイベントやレクレーションの内容を変更して対応している。同時に飲み物、食べ物等は提供せず持参して貰い、食後の消毒を徹底して行った。特に恒例の行事（昼食会・ボウリング会等）は中止し、オープンスペースでできるお弁当デイやビンゴ大会、および縮小してのクリスマス会等を行った。また、新型コロナウイルスの影響で外出を自粛し自宅待機中の人の利用が増えた。

最後に「小郡市福祉有償運送事業（移送サービス）」については、運転手 7 名、（専任 4 名、兼任 3 名）、車いす対応車両 3 台体制で行い、無事故・無違反（道路交通法第 72 条第 1 項）を続けている。令和 2 年度は新車（シエンタ）の導入で安心・安全な運行を行い、利用者さんから喜ばれたが新型コロナウイルスの影響にて通院や外出が減り利用回数は減少した。

令和 2 年度の利用登録者は 274 名、移送回数は 延べ 4,462 件（昨年より 1,043 件減）となり総収益（移送代金と年会費）は 2,946,740 円となった。尚、本年度はコロナ困窮者生活支援事業を受託したため、配達部門を移送サービス職員が行った。

3 台体制のため、予約時点で調整を行なうことで早朝の対応も行ない、障害（身体・知的・精神・児童・特定疾患）に応じた対応（介助）にて、安心して乗車して頂けたと考える。その反面、維持経費（人件費や燃料費等）の捻出が重み、タクシー料金の半額という利用料金では収益は出ず本年度も実質赤字になっている。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動法人に係る事業

定款の事業	事業の内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
障害者の生活支援に係る事業(1)	認定調査事業(面接)	通年 9時～17時	調査対象者 宅施設・病院 相談室	6名	障害(児)者  130名	

生活相談事業 (来所)	通年 9時~17 時	支援センタ ー相談室	7名	障害(児)者・家族・ 関係者等 (延べ)640件
生活相談事業 (電話・メール)	通年 9時~17 時	支援センタ ー	7名	障害(児)者・家族・ 関係者等 (延べ) 5,011件
生活相談事業 (同行)	通年 9時~17 時	市役所・施 設・病院等	7名	障害(児)者・家族 (延べ)329件
生活相談事業 (訪問)	通年 9時~17 時	自宅・施設・ 病院等	7名	障害(児)者・家族 (延べ)857件
生活相談事業 (支援会議)	通年	支援センタ ー自宅・市福 祉課等	7名	障害(児)者・家族・ 関係者 (延べ)117件
生活相談事業 (計画相談)	通年 9時~17 時	自宅・相談室 施設・病院等	6名	障害(児)者 計画相談 (延べ)566件
生活支援活動 (オープンスペ ース利用)	通年 9時~17 時	支援センタ ー	9名	障害(児)者・家族・ ボランティア (延べ)3,138名
生活支援活動 (お弁当 Day)	月数回	支援センタ ー	9名	障害(児)者・家族・ ボランティア 13回(延べ)42名
生活支援活動 (七夕会)	8/7	支援センタ ー	9名	障害(児)者・家族・ ボランティア 16名
生活支援活動 (ハロウィン)	10/31	支援センタ ー	9名	障害(児)者・家族・ ボランティア 20名
生活支援活動 (紅葉狩りラン チ Day)	11/21	支援センタ ー	9名	障害(児)者・家族・ ボランティア 9名
生活支援活動 (クリスマス week)	12/21 ~5日間	支援センタ ー	9名	障害(児)者・家族・ ボランティア 33名

	生活支援活動 (節分)	2/2	支援センター	9名	障害(児)者・家族・ボランティア 3名	3,139
	生活支援活動 (ビンゴ大会)	2/23	支援センター	9名	障害(児)者・家族・ボランティア 14名	
	生活支援活動 (お花見会)	3/20	支援センター	9名	障害(児)者・家族・ボランティア 9名	
	生活支援事業 (うつ病家族広場)	13時半 ~15時	あすてらす 研修室1	2名	障害者家族 2回(延べ)15名	
	生活支援活動 (グローバルネットワーク おごおり)	年1回 1日間	あすてらす 多目的ホール及び尾久保	2名	障害児・ボランティア (延べ)37名	
	小郡市福祉有償 運送事業 (移送サービス 事業)	随時	小郡市を発着地とする 圏域	7名	障害者手帳所持者及び登録者 274名 (延べ)4,462件	
障害者への理解を深める為の啓発活動に関する事業(2)	地域交流活動 (実習生、研修生の受け入れ)	7/6~ 24日間	サポネット おごおり	7名	九州医療専門学校 相談援助実習 1名	0
	地域交流活動 (実習生、研修生の受け入れ)	7/27 ~ 16日間	サポネット おごおり	7名	筑紫女学園精神保健 福祉援助実習 1名	
	地域交流活動 (実習生、研修生の受け入れ)	8/21 ~ 24日間	サポネット おごおり	7名	久留米大学相談援助 実習 1名	
	地域交流活動 (実習生、研修生の受け入れ)	9/2 ~ 24日間	サポネット おごおり	7名	フチガミ医療福祉専門学校 相談援助実習 1名	
	地域交流活動 (実習生、研修生の受け入れ)	12/7 ~ 2日間	サポネット おごおり	7名	相談支援専門員 初任者研修 計5名	
	地域交流活動 (研修会への講	10/15	ふれあい館三国	1名	地域住民	

	師)				10名	
	地域交流活動 (小郡・まごころマルシェ)	12/26	宝満の市	1名	障害(児)者・家族・ボランティア・関係者 50名	
障害者団体が行う上記の(1)(2)の活動の支援事業	地域支援事業 (精神障がい者地域移行支援連絡会)	開催無し	朝倉総合庁舎			

(2) その他の事業

定款の事業	事業の内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
	該当なし					